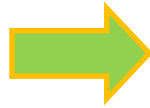


安全な新コミュニティ道路の設計 in Kanazawa Institute of Technology

《設計趣旨》

新設された21号館により人の動線が変化してきた。これに対応して道路計画も再検討する必要があると考えた。



《問題点》

- ・動線が入り混じっている。
- ・車の速度が減速されていない。
- ・夜間の見通しが悪い。

計画地：北校地コミュニティ道路

人通りの多い21号館付近を中心に計画を行う。



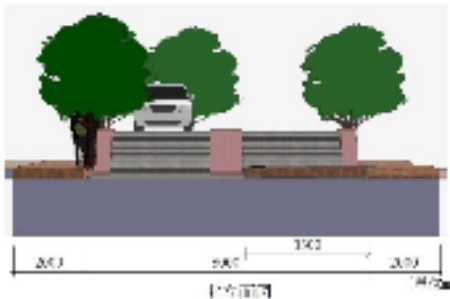
完成図

ハンプは錯覚を利用したペイント舗装とした。

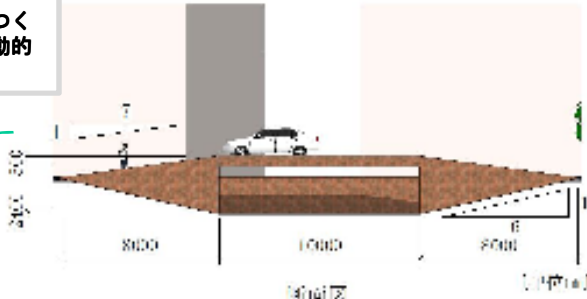
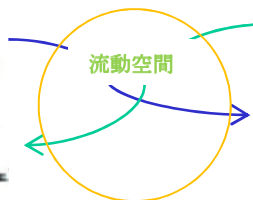


歩道、陸橋にダウンライトを配し夜間の安全を確保。

陸橋により立体動線をつくり出すことにより、流動的な空間を生み出した。



流動空間



…このシステムが与える影響

1. 歩車分離を行ったことにより、車道を横断することなく施設を移動することが可能となる。
2. 錯覚や昇降、段差を設けたことで車両の速度を断続的に落とすことができる。
3. 直線的な道路に、立体的な動線を与えることで流動空間とした。

金沢工業大学
2010年度 プロジェクトデザインII
プロジェクトテーマ : 安全なコミュニティ道路の設計
クラス番号 : VA303
チーム番号 : 5
チーム名 : 鶴と亀
チームメンバー名 : 高瀬健造 鶴岡佑 原大貴
宮川輝揮 山本将人
担当教員名 : 山崎 幹久